

news release

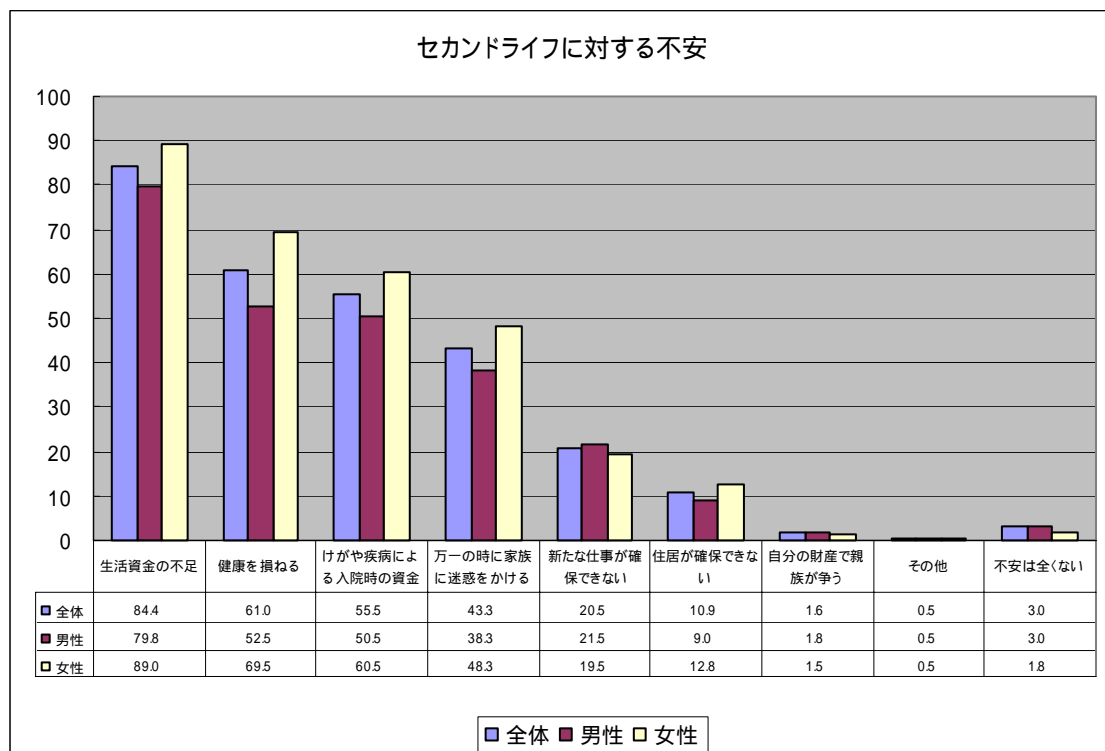
「セカンドライフと年金に関する調査」結果を発表 -8割以上が生活資金に不安、物価等が上昇した場合 普通の生活を送るためには公的年金だけでは足りないと感じる-

マニユライフ生命保険株式会社（本社：東京都調布市、社長兼CEO ジェフ・クリックメイ）は、20～59歳までの男女計800名を対象に、「セカンドライフと年金に関する調査」を実施いたしました。本調査は、65歳以降のセカンドライフへの消費者の意識、準備状況に対する不安の大きさ、準備手段（金融商品）への期待・意識等の昨今の変化を捉えることを目的に実施されました。

「セカンドライフと年金に関する調査」主要な結果の要約

セカンドライフの過ごし方については、理想は夫婦二人で国内旅行。ただし資金面での不安強い -84.4%が生活資金の不足を感じる-

今回の調査では、夫婦二人で国内旅行などを楽しむ充実したセカンドライフを理想とする一方で、セカンドライフに対し生活資金の不足を感じている人が全体の84.4%に上り、明日からセカンドライフに入るといふ時に宝くじで1億円当選したとしても、約6割が、「年金だけでは充実したセカンドライフを送れない、これからの生活費に充てていく」と回答するなど、セカンドライフに向けた資金面での不安を強く感じている割合が高いことが判明いたしました。



年金以外にも老後の生活資金は必要 -月に最低25.9万円必要、希望は40.5万円-

本調査によると、夫婦二人がセカンドライフをおくる上で必要な「月々最低限の日常生活費」は、平均金額で25.9万円となっておりますが、趣味・旅行・美味しいものを食べる等の余裕あるセカンドライフをおくることを考えた場合には、平均で40.5万円の生活費を希望しています。また、物価等が上昇した場合「公的年金だけでは普通の生活はおくれな」と思っている人が87.7%に上っています。

セカンドライフへの準備金 -2.5万円/月-

家計の無駄を少しでも省く努力をした上で、セカンドライフの準備にまわせる金額は平均で2.5万円/月。男性は2.8万円/月、女性は2.2万円/月と、男性の方が若干高くなっています。また、40・50代は金額が高い傾向がみられ、約3万円/月程度の回答が多くなっています。

過半数は金銭的な準備をしていない -40・50代「もっと早く始めておけば良かった」-

またセカンドライフに向けた金銭的な準備として、実際に「計画に基づいてすでに準備を始めている」または「計画性はあまりないが準備だけは始めている」と回答した人は、20代男性で33.0%、30代男性で44.0%など年齢が若くてもセカンドライフ意識が高い人は早くから金銭的準備を開始しているものの、全体では41.7%と半数に満たず、準備をしている人でもその平均積立金額は3.4万円/月と低い傾向にあります。準備開始理想年齢としては、平均36.1歳となっており、20・30代は「もう少し経ってからでもいい」に対し、40・50代は「もっと早くから始めておけば良かった」という回答が多くみられました。

半数以上はリスク型金融商品の購入に前向き -但しリスクとリターンのバランスを重視-

リスク型金融商品（株価や為替相場にあるような元本割れするリスクのある外貨預金・投資信託・株式など）については、過半数（55.8%）が今後の購入意向を示しており、特に男性20代・30代で積極的な購入意向がみられました。

- ・ 「購入経験があり今後も購入を検討していきたい」（31.5%）「購入経験はないが今後は購入を検討してみたい」（24.3%）
- ・ 「購入経験があり今後も購入を検討していきたい」は、男女とも年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、特に男性では、40代男性が最も高く47.0%。

一方、リスク型金融商品に対しての考え方は「リスクとリターンのバランス性を重視し安定的に増やしたい」が32.1%と最も多くなっています。

セカンドライフに必要な保障は？ -老後生活資金と医療保障-

セカンドライフに必要な保障の優先順位については、「老後の生活資金」「医療保障」「介護保障」「死亡保障」の順となっており、優先度1位もしくは2位に「老後の生活資金」を挙げた人は全体の87.3%、「医療保障」は77.8%となりました。老後生活資金と医療保障が、セカンドライフを送る上での基本保障と捉えられていると言えます。

マニユライフ生命では、このような調査を通じて、今般関心が高まっているセカンドライフの資金準備のための商品など、日本のお客様の真のニーズにお応えする最先端の商品開発を進め、より多くのお客様にご利用頂きたいと考えています。

- 「セカンドライフと年金に関する調査」の詳細データは下記広報担当にお問い合わせください。HPにて公開しております。

(www.manulife.co.jp/corporate/pdf/secondlife_surveyresult.pdf)

「セカンドライフと年金に関する調査」概要

調査方法・・・インターネット調査
調査期間・・・2005年7月22日(金)～7月25日(月)
調査対象・・・20～59歳までの男女計800人
各性・年代でサンプルを割り付けして実施
調査会社・・・株式会社インフォプラント

マニユライフについて

マニユライフ生命保険株式会社（「マニユライフ生命」）は、マニユライフ・ファイナンシャル社のグループ企業で、世界的な格付け会社スタンダード&プアーズ社から、トップクラスの格付けの一つである「AA+」を取得しています（2005年9月現在）。

マニユライフ・ファイナンシャルは、カナダを本拠とし、世界19ヶ国・地域で数百万のお客様にサービスを提供している金融サービスのリーディング・グループです。カナダおよび日本、大部分のアジア地域では、マニユライフ・ファイナンシャルとして、また、米国においては、主にジョン・ハンコックとして事業を展開し、同社職員、エージェントおよび販売パートナーの広範囲にわたるネットワークを通じて、お客様に多種多様な保障商品や資産運用サービスを提供しています。マニユライフ・ファイナンシャルの管理運用資産は2005年6月30日現在3,640億カナダドル(2,970億米ドル)となっています。

マニユライフ・ファイナンシャル社は、トロント証券取引所、ニューヨーク証券取引所およびフィリピン証券取引所においては「MFC」の銘柄コードで、また、香港証券取引所では「0945」で取引されています。

マニユライフ・ファイナンシャルについての詳細は同社ホームページ (www.manulife.com) をご覧ください。マニユライフ生命のホームページは次の通りです。 (www.manulife.co.jp)

(ご参考)「セカンドライフと年金に関する調査」その他の結果の抜粋

セカンドライフは80歳まで...

- ・ セカンドライフとしてイメージする年齢は男女各年代とも「80歳まで」が最多(全体36.2%・男性39.3%・女性33.3%)。一方男性で「80歳まで」に次いで回答の多かったのは「75歳まで」(18.3%)、女性では「一生、死ぬまで」(27.3%)で、女性の方が長生きのイメージが強い。

セカンドライフは配偶者と一緒に住み慣れた町で過ごしたい...

- ・ セカンドライフを過ごす相手は「配偶者と二人で」が全体の7割(72.1%)を超える。女性は「自分と子供の二世帯で」もやや高く、特に50代では4人に1人(23.0%)がその意向を示す。また、「自分一人で」という意向は、男女ともに年代が上がるにつれて高くなり、男性では特に50代で高い(17.0%)。セカンドライフを過ごしたい場所は「国内(ずっとそのまま住んでいる居住地)」(41.1%)がトップ。但し、男性40・50代は“憧れの地に住みたい”(23.0%・26.0%)意向も強い。

セカンドライフの楽しみは旅行と...

- ・ セカンドライフの過ごし方に関しては、全体の55.3%が「国内旅行を楽しんでいる」と回答、次いで「海外旅行を楽しんでいる」(39.4%)が続き、「旅行」への期待が強い。全般的にみてアクティブなセカンドライフをイメージしているのは、男性よりも女性と言える。特に20代女性は色々なことをしたいと思っている傾向が強いが、女性50代も同様に「国内旅行」「海外旅行」「自己実現」志向が強い。

「宝くじ」で1億円当たったら...

- ・ 明日からセカンドライフに入るという前提で「宝くじ」に当たった場合の1億円の用途に関する質問で最も回答が多かったのは「年金だけでは充実したセカンドライフを送れない、これからの生活費に充てていく」(59.0%)だが、男性50代では「やってみたかった仕事を新たに始めるための企業資金に充てる」が相対的に高い(21%)。女性は各年代層で「高級老人ホームの加入資金」(平均14.3%)が均等にみられ、堅実な自立志向が伺える。その一方、50代女性は20・30代男性と同様、「別荘や高級外車など今まで欲しかったものを可能な限り購入する」(23.0%)意識が他の年代よりも高い。

セカンドライフへ向けた平均的な金銭的準備開始年齢は、37.5歳...

- ・ 金銭的準備を始めている人に聞いた準備開始年齢は全体平均で37.5歳。一方、セカンドライフに向けた準備をしていない人の抱く金銭的準備開始年齢のイメージは平均43.0歳。準備開始年齢は各年代で“おおよそ5年後くらい”をイメージしており、“もう少し経ってから開始したい”と考えているようだ。但し、50代は男女とも今の年齢から開始したい意向がある。

「家計の財布」の管理者は奥さん...

- ・ 「家計の財布」の管理者は、「自分」という回答が63.8%と多いが、性別で見ると、男性の55.8%に対して女性は71.8%。女性は各年代とも「自分がすべて管理している」が68%~75%に達しているのに対し、男性で7割に達しているのは未婚の割合が多い20代のみ。(以上)